

令和3年度 一本松中学校学校評価(学年末)

愛南町重点目標

評価規準 A：目標を達成 B：6割以上肯定 C：4割以上肯定 D：4割未満 サンプル数 教職員(8人) 生徒(48人) 保護者(39人) 地域住民(29人)

重点目標	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評価	学校による考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
					4	3	2	1
4 生き生きとした学校づくり	(1) 自律性や自治的能力の育成	前期評価	◇肯定的な意見が8割以上である。しかし、生徒一人一人が主体的に学校生活の向上に取り組んでいるとは言い難く、生徒会活動の活発さに欠けていると思われる。 ◆さまざまな場面で生徒会執行部から全校生徒への働きかけを行い、自分たちの手で学校生活をつくるために、生徒会活動の活性化を図りたい。	教職員アンケート	22	78	0	0
		A		生徒アンケート	63	37	0	0
		学年末評価	◇教職員・生徒ともに肯定的な意見が8割を達成した。多くの行事で生徒が主体となって取り組んだ成果だと考える。 ◆生徒会の役員が交代するので、このタイミングでさらに生徒会活動の活性化を促し、生徒の評価(4)が増えるように努める。	教職員アンケート	38	62	0	0
		A		生徒アンケート	58	35	6	0
	(2) 人権意識の醸成	前期評価	◇教職員と生徒の結果から、「スマイル委員会」の活動等もあり、校内では人権意識が高まって様子がうかがえる。一方、家庭生活や地域生活の中では、課題が残っているものと考えられる。 ◆今後、家庭や地域への啓発の強化や授業公開などを行い、人権意識の高揚を図る。	教職員アンケート	33	67	0	0
		A		生徒アンケート	89	11	0	0
		学年末評価	◇すべてが8割以上の肯定である。後半では、人権・同和教育強調週間における集中的な取組や授業公開が実施できた成果であると思われる。 ◆郡内統一教材を確実に実施する。言葉遣いの改善等、現在の取組を継続するなど、日常生活に生かすことができる取組を行う。	教職員アンケート	38	62	0	0
		A		生徒アンケート	81	19	0	0
	(3) 働き方改革の推進	前期評価	◇89%の肯定であり、学校全体でICT活用への取組が進んできている。 ◆ICT等の活用が、業務の効率化になるように、職員間で成果を共有しあって学び合っていく必要がある。	教職員アンケート	33	56	11	0
		A						
		学年末評価	◇75%の肯定であり、前期評価よりも数値が低下している。 ◆学校行事等が多く、業務の効率化が実感できなかったのではないかと考える。更にICT等の活用の成果を学び合っていく必要がある。	教職員アンケート	25	50	25	0
		B						
(4) 学校行事の内容の精選	前期評価	◇すべての対象で目標値を達成しており、A評価である。コロナ禍ではあるが、時代の変化を見極め、学校教育目標の具現化と感染対策の両立を果たすことができたと考えられる。 ◆教職員が、時代は常に変化し続けていることへの認識を高めるとともに、生徒、保護者、地域への説明責任を果たし、よりよい教育活動につなげていく必要がある。	教職員アンケート	22	67	11	0	
	A		生徒アンケート	80	17	2	0	
	学年末評価	◇生徒・保護者・地域住民については、9割以上が肯定しており、コロナ禍における学校行事について理解していただいていると捉える。教職員にはやや否定的な考えもある。 ◆新学習指導要領全面实施、GIGAスクール構想等、時代は激しく変化をしている。その変化に柔軟に対応するために、研修を通じて教職員の資質・能力の向上を図っていく。	教職員アンケート	37	38	12	12	
	A		生徒アンケート	65	29	6	0	
学校運営協議会の所見	前期評価	○コロナ禍ですが、できる限りの行事を行っていただき、その結果が出ていると思う。 ○(1)は肯定率が100%ですばらしい。先生方が生徒を尊重し、うまくサポートできているからではないか。 ●生徒会が「核」となって、一中生が手を取り合う中で、いじめや差別を発見・解決して一つになるよう、家庭からの応援・協力もお願いしたい。 ●(2)について、教職員・生徒の肯定率は100%であるが、保護者・地域住民アンケートでの低い評価が気になる。	学校の対応	前期評価	・今後も、何ができるかを生徒共に考え、工夫しながら学校行事に取り組む。 ・日々の生活の中で、思いやりの意識が高まるよう指導・支援を継続する。また、支え合いの場面等を通信等で積極的に発信していく。			
	学年末評価	○「言葉遣いの改善」という着眼点はとてもよい。生涯にわたるものであり、コミュニケーションのカギでもある。 ○多くの行事で、生徒が主体的に取り組んでおり、喜ばしいことである。 ●生き生きとした学校づくりを行うには、核となる教職員の心身の健康とゆとりが大事である。そのためにも、業務の効率化や行事等の精選に一層努めてほしい。 ●ほとんどの生徒は気持ちよくあいさつができていますが、時々声が小さいのか、聞こえないときがあるので、元気よくあいさつしてほしい。		学年末評価	・教職員のゆとりが生徒の成長につながることを念頭に、業務の効率化と精選に努める。特に業務の偏りをできる限り改善し、組織的に行うことで負担感の軽減を図る。			